

Round 1 | 2 | 3



● Infomation

circuit モビリティリゾートもてぎ(栃木県茂木町)
 date 11/30 **sat** 12/1 **sun**
 weather 晴れ 晴れ
 spectators -

Outline

2024年全日本スーパーフォーミュラ・ライツ選手権 Round1・2・3が11月30日(土)・12月1日(日)にモビリティリゾートもてぎで行われ、小林利徠斗がRound2で優勝、Round1とRound3で2位表彰台と、3レースすべてで表彰台を獲得した。中村仁はRound2で3位に、Round1、Round3で5位に入った。古谷悠河はRound3でスタートを決め3位表彰台に。チャンピオンの可能性を残し乗り込んだ野中誠太は公式予選で起きた電気系トラブルが響き、Round3での6位のみ入賞となった。

Result

Driver **35** 中村 仁 JIN NAKAMURA
 モビリティ中京 TOM'S 320 TGR-DC



	Rd.1	Rd.2	Rd.3	Driver Rank
予選	7位	4位	5位	4位
決勝	5位	3位	5位	

	Rd.1	Rd.2	Rd.3
予選タイム	P7/1'43.841	P4/1'43.273	グリッドは第1戦の決勝レース結果
ベストタイム	P5/1'45.452	P3/1'44.710	P5/1'45.640



Driver **36** 野中 誠太 SEITA NONAKA
 PONOS Racing TOM'S 320 TGR-DC



	Rd.1	Rd.2	Rd.3	Driver Rank
予選	11位	11位	13位	3位
決勝	-	8位	6位	

	Rd.1	Rd.2	Rd.3
予選タイム	P11/1'44.848	P11/1'44.551	グリッドは第1戦の決勝レース結果
ベストタイム	-	P8/1'45.504	P6/1'45.276



Driver **37** 古谷 悠河 YUGA FURUTANI
 Deloitte HTP TOM'S 320



	Rd.1	Rd.2	Rd.3	Driver Rank
予選	9位	8位	7位	8位
決勝	7位	7位	3位	

	Rd.1	Rd.2	Rd.3
予選タイム	P9/1'44.257	P8/1'43.795	グリッドは第1戦の決勝レース結果
ベストタイム	P7/1'45.888	P7/1'45.488	P3/1'45.089



Driver **38** 小林 利徠斗 RIKUTO KOBAYASHI
 モビリティ中京 TOM'S 320 TGR-DC



	Rd.1	Rd.2	Rd.3	Driver Rank
予選	2位	2位	2位	2位
決勝	2位	1位	2位	

	Rd.1	Rd.2	Rd.3
予選タイム	P2/1'42.855	P2/1'43.245	グリッドは第1戦の決勝レース結果
ベストタイム	P2/1'44.762 Fastest Lap	P1/1'44.514 Fastest Lap	P2/1'45.072



予選



Qualifying detail

**野中誠太にまさかのトラブル
第1戦、第2戦とも下位に沈む
小林利徠斗が両戦とも2番手に**

鈴鹿大会では野中誠太が2勝を飾り、ランキングトップに9点差まで迫って迎えた2024年全日本スーパーフォーミュラ・ライツ選手権第1大会。4月に行われる予定だったが、諸事情により延期されシーズンの最終大会として行われた。チャンピオン争いの緊張感のなか28日(木)、29日(金)は晴天のもと専有走行が行われたが、ランキング首位の小出峻選手が1回目でトラブルに見舞われたなか、さらに古谷悠河が上位タイムを記録し好調な滑り出しをみせた。

しかし、30日(土)の9時55分から行われた公式予選ではまさかの事態が起きた。野中の車両に電気系トラブルが発生し、ステアリングの電源が一瞬落ちてしまう症状が出た。野中は何とかタイムを記録したが、Round1、Round2とも11番手と下位に。一方で小林が両戦とも2番手を獲得し、中村は第1戦では7番手と苦戦したが、第2戦に向けアジャストし5番手につけた。古谷は専有走行での感触が得られず、9番手、8番手と苦戦を強いられた。

After Qualifying



**ギクシャクした走り出し。
クルマに合わせ切れていない。**

ドライバー 中村 仁

35

走りとかクルマをうまく合わせていけない状況になっています。何というか、ギクシャクしています。予選第1戦ではうまくクルマに合わせきれませんでした。第2戦に向けてクルマもドライビングも修正し、完璧ではありませんが良い状況にすることができたと思います。



**練習走行ではチームベストも
予選ではグリップ感がない。**

ドライバー 古谷 悠河

37

木曜から金曜の専有走行で少しずつクルマを改善させることができ、ドライビングも進化してチーム内でもトップタイムで終わることができたのですが、いざ公式予選となってみたらまったくグリップ感がなく、何が起きているのか分からない状況になってしまいました。



**まさか予選でトラブルが。
決勝に向け切り替えていきたい。**

ドライバー 野中 誠太

36

ステアリング周辺の電源が落ちるトラブルが予選で発生し、変速ができない状況が毎周数秒生じました。第1戦の予選後に対策したのですが、根本的な原因は見つかりませんでした。まさかこのタイミングで思いましたが、決勝に向けて切り替えたいと思います。



**自分の中でのベストだが
まだ知らない領域がある。**

ドライバー 小林 利徠斗

38

練習走行まで良いクルマの状態にたどり着けていきましたが、予選までにある程度のかたちにすることができました。僕としては予選がベストでしたが、ポールポジションではなかったのも、自分が知らない領域があると思います。もっと研究して見つけていきたいです。



野中選手には本当に申し訳ないことをした。

チーム監督 山田 淳

野中選手のトラブルは「申し訳ない」で済まされる話ではありません。原因が特定できていないのでレースまでに対策したいです。小林選手がチームでは最速でしたがセクター1に課題があります。中村選手は何故か歯車が合わず残念な結果でした。

Rd.1 ●天候：晴れ ●気温：18℃ ●路面温度：23℃
Rd.2 ●天候：晴れ ●気温：14℃ ●路面温度：19℃
Rd.3 ●天候：晴れ ●気温：17℃ ●路面温度：24℃

決勝



Qualifying detail

**小林が1勝、2回の2位で3戦とも表彰台
Rd.2で中村が、Rd.3で古谷が3位に
野中はRd.3で意地の1ポイント**

30日(土)の13時25分から行われたRound1 決勝に向け、野中の車両のトラブルを解決するべく作業を進めたが、スタートには間に合わず。レースが15周目に入ったところでようやくコースインしたものの、トラブルは解消しておらず、この一戦で#50小出選手が優勝を飾り、野中のチャンピオンの可能性はなくなってしまった。そんな一戦では、小林が終始トップを争いながらもオーバーテイクはならず2位に。中村は5位、古谷は7位でレースを終えた。

12月1日(日)のもてぎも晴天に恵まれ、9時20分からRound2が行われた。ここで好スタートを決めた小林はS字カーブでトップに浮上。そのままリードを守り今季3勝目を飾った。中村も1周目にポジションを上げ3位表彰台に。古谷は7位、この日はトラブルを解消した野中は8位でレースを終えた。13時25分からのRound3では、古谷がスタート後抜群の加速をみせ、小林と2位争いを展開。小林が2位、古谷が3位に。中村が5位、1周目に順位を上げた野中が6位で1ポイントを獲得した。これにより、TOM'Sがライバルチームを上回って今季のチームチャンピオンに輝いた。

After Race



良いところ、悪いところがそれぞれ出た週末でした。

ドライバー 中村 仁

35

良かったところ、悪かったところが出た週末でした。1レース目では中古タイヤで前に追いつけましたが、2レース目では新品タイヤを入れたものの抜くに至らず、3位にとどまったのは課題でした。3レース目はスタートが良くなかったですが、週末で一番の走りはできたと思います。



上位を争うスピードはあった。やっぱり悔しいです。

ドライバー 野中 誠太

36

第1戦はコースインしたものの、またトラブルが出ました。第2戦、第3戦ではトラブルは解消し、スタートも抜群に良かったですし、混雑したなかでも上位を争うスピードはありました。自分がやれる最低限のことはできたと思いますが、やっぱり悔しいです。



グリッドの低さがすべて。やれることはすべてやれた。

ドライバー 古谷 悠河

37

予選でのグリップ感のなさは解決して、3レースともできることはすべてやることができましたが、グリッド位置がすべてですかね。セットアップを大きく変えた第3戦では、加速と位置取りが良く3位に上がることができました。2位まで上がればもっと良かったです。



心を整えられて、成長できた週末でした。

ドライバー 小林 利徠斗

38

今回自分のなかで目標としていた、心と身体をしっかりと整え、きっちり頭を良く回して過ごすことができた週末でした。週末を通じてクルマを良くすることができ、3レースとも安定してスタートができ、レースを戦えて1勝できたのは良かったです。成長できた週末でした。



反省の一言に尽きる週末。小林選手のランキング2位は良かった。

チーム監督 山田 淳

野中選手はチャンピオンがかかった大事なところで、しっかり走らせることができなかったのは取り返しのつかないミスです。今回最も良かった小林選手は1勝をあげてくれました。最終的にランキングも2位になり1年目としては十分なパフォーマンスで、来シーズンはチャンピオンを目指してもらいたいです。2024年シーズンが今大会をもって終了しました。サポートしていただいた皆様には感謝の気持ちでいっぱいですが、ありがとうございました。

Race Scene



トヨタモビリティ中京

KUO
GROUP

Deloitte.

PONOS



坪井工業



損保ジャパン

東京アーバンコンサルティング

Happiness in Your Life
広島トヨペット
HIROSHIMA TOYOPET TECHNICA

HTP Racing

バンテリン

AVET #30

LAC

S&D
TAMA GROUP

EDIFICE
CASIO

"ART"

TGR-DC
TGR Driver Challenge Program

GR Toyota
GAZOO
racing

TRD

ThreeBond

PFC
BRAKES

ENKEI